

令和4年度 横浜市介護認定審査会 議事要旨	
日 時	令和5年3月27日(月曜日) 19:30~20:30
場 所	横浜市役所 18階みなと6・7会議室
出 席 者	水野委員(会長)、松井委員(副会長)、横倉委員(副会長)、浅井委員、池田委員、片山委員、金村委員、川口委員、佐藤委員、柴田委員、杉田委員、高橋委員、内藤委員、西川委員、廣瀬委員、深澤委員、真鍋委員、三木委員、水口委員 計19人
欠 席 者	玉城委員 計1人
委任状提出状況	各区介護認定審査会委員 計621人
開 催 形 態	公開(傍聴者0名・報道関係者0名)
議 題	<p>1 議事</p> <p>(1) 会長候補者の選出</p> <p>(2) 副会長候補者(職務代理者)の指名</p> <p>(3) 審査会委員の合議体所属指名</p> <p>2 横浜市からの連絡事項</p> <p>(1) 介護保険制度の動向と横浜市の実施状況</p> <p>(2) 要介護認定に関する横浜市の現状と課題</p> <p>3 その他</p>
議 事	<p>1 議事</p> <p>(1) 会長候補者の選出 現会長の再任について、一同異議なく、水野会長に決定された。</p> <p>(2) 副会長候補者(職務代理者)の指名 水野会長の指名により、一同異議なく、松井副会長、横倉副会長に決定された。また、職務代理者については、水野会長の指名により、一同異議なく、第1に松井副会長、第2に横倉副会長として決定された。</p> <p>(3) 審査会委員の合議体所属指名 全754人の委員が所属する合議体について、水野会長の指名により、一同異議なく、決定された。</p> <p>2 横浜市からの連絡事項</p> <p>(1) 介護保険制度の動向と横浜市の実施状況 事務局から説明を行った。</p> <p>(2) 要介護認定に関する横浜市の現状と課題 ア 横浜市要介護認定事務センターについて イ がん末期の方への迅速な要介護認定の実施について ウ 介護認定審査会委員(補助)テキストについて アからウについて、事務局から説明を行った。</p>

3 その他(質疑応答および意見)

(1) 特記事項について

(深澤委員)

認定調査票の特記事項の質に差があることに対して、市はどう取り組んでいくのか。レベルアップや平準化するための取り組みは行っているのか。

(事務局)

要介護認定事務センターを設置し、一律の基準でチェックすることで、例えば頻度の記載漏れがなくなるなどの平準化が図られてきていると考えている。

記載内容の質の向上に向けては、センターとの情報共有や研修の実施を通じて、引き続き取り組んでいきたい。

(2) 主治医意見書について

(川口委員)

主治医意見書の書式が記載しにくい。他都市の書式では、診断名の欄が広く、記載必須の項目や重要項目の欄は太くするなど、工夫されている。このような工夫により、記載漏れも減るのではないかと。周辺市を参考に検討してほしい。

(3) 一次判定について

(杉田委員)

病状が進行する被保険者に対して、前回よりも一次判定が軽度化するなど、理屈に合わない調査結果がしばしばあると感じている。このような場合、要介護認定事務センターの事前点検で把握できるのではないかと。また、認定調査にもばらつきがあるのではないかと。

(事務局)

多角的なアプローチが必要と考えている。センターのチェックだけでなく、認定調査員のレベルアップや保険者として横浜市のチェックの質も上げていくことが必要。

研修等を通じて取り組んでいきたい。

(4) 所要日数について

(深澤委員)

がん末期の所要日数統計について、区ごとに集計すると、極端に日数を要したケースが1件でもあると実態と合わない結果となっている。精査をして欲しい。

(事務局)

データが少ないため、ご指摘の状況が生まれた。今後、より実態を反映したデータが取れるよう検討していきたい。

(松井委員)

所要日数を要している要因として、主治医意見書の作成が遅いことが顕著。引き続き、早期の主治医意見書の作成が図られるよう、取り組みを行ってほしい。

以上